

## バルザックの「意志論」

(『仏文研究』13号、1984年2月、pp. 180-208)

バルザックを写実派とみなす従来の批評ではなく、「幻視家」とみなすボードレールやアルペール・ベガンなど新しい批評の立場に立って、バルザック独自の哲学思想「意志論」の原理を探った。当時流行した学説、メスメリズムやスエーデンボリの神秘思想と関連づけながら、心的現象を物理的に捉えようとしたバルザックの理論を明らかにし、「意志論」が『人間喜劇』全体の基盤となっていることを証明した。